

公益財団法人仙台市市民文化事業団
中期経営計画（2018-2020年度）
及び令和2（2020）年度 事業計画の概要

1 中期経営計画案の全体像

本計画案は、2017年1月に策定した「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」にある5つの基本方針に基づき、2018年度から3ヵ年にわたって取り組む事業のねらいや方向性とともに、その実現を支える経営強化目標、収支計画等によって構成されています。

加えて3年目である令和2（2020）年度の具体的な事業計画について、概要を示しました。

定款 第3条 目的

この法人は、文化芸術の振興、郷土の歴史の継承及び生涯学習の支援に関する事業を行い、
もって魅力ある市民の文化創造と豊かな市民生活の実現に寄与することを目的とする。

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」

5つの基本方針

＜方針その1＞

資料の収集と活用

ミュージアム施設の管理・運営／常設展・企画展等の開催

＜方針その2＞

市民の文化活動への支援

活動者への支援・助成・協力／鑑賞機会の提供

＜方針その3＞

さまざまな人材の育成

講座・ワークショップ・市民協働型事業の実施／
ボランティア組織の運営

＜方針その4＞

[楽都][劇都]の成長促進

音楽・舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進／
劇場・音楽堂の活性化

＜方針その5＞

地域文化資源の活用

文化による地域共生社会の振興／新たな地域文化の創造

経営の強化

●人材の確保・育成

●経営基盤の強化

2 「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」基本方針と事業の概要

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

＜方針その1＞ 資料の収集と活用 *その2にも該当

歴史や伝統、多様な文化芸術に関する資料収集・調査研究とその成果の活用により、市民の暮らしに息づく文化の保存・伝承および総合的な文化の振興を図り、まちの魅力向上に活かします。

- ① 資料収集や調査研究を通じて、文化を育み活用する基盤の整備に寄与し、市民文化の振興に努めます
- ② 調査研究等で得られた成果を活用し、さまざまな手法でこれを市民に提供していくことで、市民が学びを楽しむきっかけをつくるとともに、「ミュージアム都市」として、継続的な学びを支援します
- ③ 長い年月の中で、災害や技術の進歩、ライフスタイルの転換などにより、変化し、喪失してしまう地域の記録や記憶を保存し、大切な文化資源としての活用を図ります

2018-2020年の方向性

2019年度の「仙台市歴史民俗資料館開館40周年」「仙台文学館開館20周年」を節目と捉え、両施設の周年事業を次の方針で計画・実施・検証するなど、今後の各ミュージアム運営に資する新しい業務に着手していきます。

- ・蓄積した資料や成果を国内外に向けて積極的に情報発信します
- ・施設の存在をさらに広く知ってもらうために、多彩な事業を実施し、新規の来場者を開拓します
- ・現在の施設運営課題を絞り込み、その解決のための新たな方策や事業を試行しながら、その効果を検証します

令和2（2020）年度 事業の概要

令和元（2019）年度は、歴史民俗資料館40周年及び仙台文学館20周年記念事業を行い、施設の魅力を例年以上に強く発信することにより、新規来場者の開拓を図りました。

令和2（2020）年度は、施設ごとに特色のある展示事業を実施し、関連事業等とあわせて様々な方向から興味関心を持っていただくことで、新規来場者やリピーターを増やしていきたいと考えています。また、新たな展示手法の開発・導入にも取り組みます。

（1）ミュージアム施設の管理運営・資料収集・調査研究

- ア 仙台市歴史民俗資料館 管理運営（市指定管理料／No. 75, 82, 83）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営（市指定管理料／No. 85, 92-96）
- ウ 仙台市縄文の森広場 管理運営（市指定管理料／No. 98, 101, 109-113）
- エ 仙台市縄文の森広場 展示手法の開発・導入（自主財源／No. 20）
- オ 仙台文学館 管理運営（市指定管理料／No. 114, 121）

（2）常設展・企画展等の開催

- ア 仙台市歴史民俗資料館 企画展等（市指定管理料／No. 76-79）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 企画展等（市指定管理料／No. 86-90）
- ウ 仙台市縄文の森広場 企画展等（市指定管理料／No. 99, 100）
- エ 仙台文学館 企画展等（市指定管理料／No. 115-120, 122）

主な展示事業

- ・ 仙台市歴史民俗資料館
 - 「オールドグラフィック～近代仙台のメディア文化」
 - 「仙台の災害～天災は忘れたころに～」
- ・ 地底の森ミュージアム
 - 「仙台の遺跡めぐり きみのまわりの旧石器」
 - 「考・古・食ー和食のはじまり」（仮）
- ・ 仙台市縄文の森広場
 - 「東北の縄文遺跡」
- ・ 仙台文学館
 - 「作家・編集者 佐左木俊郎～農村と都市 昭和モダンの中で」
 - 「安野モヨコ（仮）」
 - 「佐野洋子の世界（仮）」

新たな展示手法の開発・導入への取組

- ・ 仙台市縄文の森広場 展示手法の開発・導入
 - 「リビングヒストリー」「3次元計測」を柱として、新たな展示手法の開発にあたる。

＜方針その２＞ 市民の文化活動への支援

市民が行う自主的な学びや活動の場を提供し、さまざまな文化活動を支援することで、年代やライフステージに関わらず誰もが心豊かな市民生活を送り、地域が活性化することをめざします。

① 市民や市民団体が行う自主的な学びや活動を支援するとともに、市民が多様な文化に触れる機会を提供し、心豊かな暮らしと地域の持続的な発展に寄与することをめざします

② 多様な文化に関わる情報に誰もがアクセスできるよう、さまざまな手法による発信に努めます

③ 震災からの復興や地域づくりにおいて文化が果たしてきた役割を検証し、次代につないでいきます

④ 多様な年代・ライフステージに応じた学びと活動の機会を確保し、文化への理解と支援の拡大をめざします

⑤ 施設の利用者がいつも安全に安心して利用できる管理運営を行うとともに、さらなる魅力の向上を図ります

2018-2020年の方向性

当財団が果たしてきた市民活動支援の役割を維持継続していくとともに、既存の制度や仕組みの段階的な充実を図ります。加えて鑑賞者向け事業やサービスを、時代の変化を意識して再編成します。

・2020年度のせんだいメディアテークの開館20周年を節目と捉え、次の10年の方向性の検討をすすめ、周年事業を計画・実施します

・鑑賞者に向けた各種広報及び「市民文化事業団友の会」、制度改正後10年余りが経過する「支援・助成・協力事業」の仕組み等を改めて検証し、それぞれ有効度の向上に取り組みます

・ホール系施設の劇場としての機能充実を目指し、より良い運営のための外部評価の充実や、文化庁等外部財源のさらなる獲得に努めながら、事業の充実を図ります

令和2（2020）年度 事業の概要

令和元（2019）年度は、貸出施設のある指定管理施設の管理運営や「支援・助成・協力事業」などの継続を通じて、多様な文化活動への支援を行いました。また令和2（2020）年度のせんだいメディアテーク開館20周年に向けた記念事業の準備を行いました。

令和2（2020）年度は、公募4期目の指定管理者として選定された「泉文化創造センター」、大規模修繕のため10月から1年間全館休館となる「青年文化センター」、開館20周年を迎える「せんだいメディアテーク」など、それぞれ節目を迎える施設の管理運営を、今後の施設の将来像も見据えながら行っていきます。加えて、市民ニーズに応える鑑賞公演を幅広く実施するほか、ダンスなどの市民参加プログラムを継続します。また、「支援・助成・協力事業」の新たな仕組みづくりなど、時代の変化に沿った事業リニューアルを推進します。

（1）活動者への支援・助成・協力

- ア 仙台市青年文化センター管理運営（市指定管理料／No. 123）
- イ 仙台市泉文化創造センター管理運営（市指定管理料／No. 124）
- ウ せんだい演劇工房10-BOX・能-BOX管理運営（市補助金・使用料等／No. 56）＊その4にも該当
- エ せんだいメディアテーク管理運営・生涯学習支援事業（市指定管理料／No. 125, 126）
＊その3・その5にも該当
- オ 支援・助成・協力事業（市補助金・自主財源／No. 2）＊その3・その5にも該当

（2）鑑賞機会の提供

- ア 仙台文学館普及啓発事業（市補助金／No. 61, 62）
- イ せんだいメディアテーク経常事業（市補助金・市負担金・助成金・入場料等／No. 70-74）＊その5にも該当
- ウ 舞台芸術振興課鑑賞事業（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料／No. 9）＊その4にも該当
- エ 仙台国際音楽コンクール最高位入賞者副賞コンサート（市負担金・出演料等／No. 53）＊その4にも該当
- オ 共催事業／文楽・青葉能等（自主財源／No. 8）＊その4にも該当
- カ 仙台市青年文化センター活性化事業＜パフォーマンスフェスティバル等＞
（自主財源／No. 10）＊その4にも該当
- キ 仙台市泉文化創造センター活性化事業＜宝塚・寄席・ロビーコンサート等＞
（自主財源・入場料等／No. 4, 7, 11）＊その4にも該当
- ク 仙台市歴史民俗資料館活性化事業＜れきみん秋祭り等＞（自主財源・助成金／No. 12, 13, 25）
- ケ 仙台市富沢遺跡保存館活性化事業＜狩人登場！等＞（自主財源・参加料等／No. 14, 16, 17, 25）
- コ 仙台市縄文の森広場活性化事業＜縄文まつり復元プロジェクト等＞（自主財源／No. 18, 19, 25）
- サ 仙台文学館活性化事業＜ライブ文学館等＞（自主財源・助成金・入場料等／No. 21-23, 25）
- シ せんだいメディアテーク活性化事業＜ホスピタリティ向上事業等＞（自主財源／No. 24, 25）
- ス 文化情報広報事業（市補助金・自主財源／No. 44, 45）
- セ 「市民文化事業団友の会」事業（自主財源／No. 46）

主な鑑賞事業

- ・宝塚歌劇月組公演 会場：仙台市泉文化創造センター
- ・ミュージカル「チョコレート・ドーナツ」演出／宮本亜門 会場：仙台市泉文化創造センター
- ・新春いずみ寄席 会場：仙台市泉文化創造センター
- ・辻井伸行プレミアム・リサイタル2020 会場：仙台市青年文化センター
- ・仙台オペラ協会第45回記念公演「魔笛」 会場：宮城県民会館
- ・仙台青葉能／文楽公演 会場：仙台電力ホール
- ・れきみん秋祭り 会場：仙台市榴岡公園／仙台市歴史民俗資料館
- ・縄文まつり復元と創造プロジェクト 会場：仙台市縄文の森広場
- ・ミュージアム・シアター“狩人登場！” 会場：地底の森ミュージアム

せんだいメディアテーク開館20周年記念事業

- ・せんだいメディアテーク円卓会議「ASSEMBLY」（20周年記念フォーラムpart2）
- ・ラウンジ展示「せんだいメディアテーク・クロノロジー」 他

事業リニューアルの検討（継続）

- ・支援・助成・協力事業 課題：アーカイブ分野等、新たな対象事業の取り込み
- ・広報事業／市民文化事業団友の会 課題：サービスの多様化・IT化／コストダウン
- ・文化庁劇場・音楽堂等活性化事業 課題：事業内容及び外部評価制度の充実

<方針その3> さまざまな人材の育成

多様な文化活動に関わる人材のすそ野を広げ、子どもたちをはじめとする次世代や新たな担い手の育成に努め、文化に関わる市民力の向上をめざします。

- ① 子どもたちが優れた文化や地域の歴史に触れる機会を増やし、次代の文化の担い手としての成長を応援します
- ② 各種ボランティアやサポーターの活躍機会の拡大に努め、互いに交流・連携しながらスキルアップをめざす取り組みを応援します
- ③ 多様な文化の担い手となる人材を育成し、新たな文化の創造や地域文化の発展・継承をめざします
- ④ 地域に受け継がれてきた伝統や民俗芸能の継承を支援し、鑑賞の機会を増やして理解を広げ、地域への誇りや愛着を深めていきます

2018-2020年の方向性

市民の多様な興味関心に応じて、芸術文化に触れる機会を広く提供する講座・イベントから、表現活動のスキルアップを目的としたワークショップまで、豊かな文化活動の担い手育成のために多層的なプログラムを実施します。

- ・子どもから大人まで、文化を体験できる多様な事業を行います。
- ・地元のアーティスト、学芸員、指導者など向けに、受講者とのコミュニケーション方法や派遣先の地域や学校をつなぐコーディネート手法など、ワークショップを支える人材の育成を図ります。
- ・文化施設や大規模な文化事業と一緒に運営するボランティアの方々とは、ノウハウの情報共有を行っていきます。

令和2（2020）年度 事業の概要

令和元（2019）年度は、出演者公募による「劇都仙台ミュージカルシアター」や、親子から中学生まで幅広い世代を対象にした「ダンスプロジェクト」を行いました。
令和2（2020）年度は、文化芸術における「社会包摂」など新たな課題に取り組むセミナーや様々な創造体験を通じ、文化の担い手の育成を図ります。加えて、国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバルの運営にあたるコンクールボランティアの活動サポートやミュージアム施設を支えるボランティア事業を継続します。

（1）講座・ワークショップの実施

- ア 舞台芸術振興課人材育成事業（市負担金・文化庁助成金・自主財源・受講料等／No. 9）＊その5にも該当
イ せんだい演劇工房10-BOX 舞台芸術人材育成事業（市補助金・自主財源／No. 27, 29, 30, 34）
＊その4にも該当
ウ 能-BOX 古典芸能人材育成事業（市補助金・自主財源／No. 31）＊その4にも該当
エ 東京藝術大学音楽学部早期育成プロジェクト（自主財源／No. 41）＊その4にも該当
オ 仙台文学館 学芸員出前講座・仙台文学館ゼミナール等各種文学講座
（市補助金・自主財源・受講料／No. 42, 63, 65）
カ 仙台市歴史民俗資料館 子ども講座・たんけん資料館等各種講座、ワークショップ（市指定管理料／No. 80）
キ 仙台市富沢遺跡保存館 考古学講座・楽しい地底の森教室等各種講座・市民文化財研究員
（市指定管理料／No. 91）
ク 仙台市縄文の森広場 発掘調査体験教室・夏休み子ども考古学教室等各種講座
（市指定管理料／No. 102, 103）
ケ 文化庁芸術家派遣事業（実行委員会参画／文化庁委託料／No. 40）

（2）ボランティア組織の運営

- ア 仙台国際音楽コンクール・仙台クラシックフェスティバル／ボランティア事業
（市負担金等／No. 52）＊その4にも該当
イ 仙台文学館友の会支援事業（市補助金／No. 68）
ウ 仙台市歴史民俗資料館サポーター養成事業（市指定管理料／No. 80）
エ 仙台市富沢遺跡保存館ボランティア事業（市指定管理料／No. 91）
オ 仙台市縄文の森広場ボランティア事業（市指定管理料／No. 104）

主な講座・ワークショップ

- ・セミナー「社会包摂と文化芸術を考える」（仮）
文化芸術に携わる方や興味のある方を対象として実施。
- ・せんだいダンスプロジェクト
未就学児の親子、小学生、中学生など対象毎のプログラムにより多様な人材を育成。
- ・放課後ダンスワークショップ
仙台市内の児童館や学校と連携し、放課後の時間帯にアウトリーチ事業を実施。
- ・東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト
- ・演劇と表現の講座
身体表現に着目し、舞台芸術を幅広く体験し多角的に学ぶ講座。
- ・舞台スタッフ☆ラボ
- ・能-BOX こどものための能講座・能のおけいこ体験講座
- ・文学館で言葉を楽しもう
小中学校の授業とタイアップし、文学への興味や感性、表現力を養うプログラム。
- ・文化庁芸術家派遣事業
「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が文化庁から業務を受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞機会を提供する事業。会場：市内学校・保育所等

主なボランティア事業

- ・仙台国際音楽コンクールボランティア（仙台クラシックフェスティバルボランティアとの重複あり）
会場運営などのボランティアの募集・運営。登録243名。
- ・仙台クラシックフェスティバル ボランティア
カメラマン、アナウンス、舞台装花部門を担うボランティアの募集・運営。登録48名。
- ・仙台市縄文の森広場ボランティア
各種体験活動の補助や展示解説を担うボランティアの募集・育成。登録64名。
- ・地底の森ミュージアムボランティア
展示解説や各種イベントの補助を担うボランティアの募集・育成。登録68名。

<方針その4> [楽都][劇都]の成長促進 *その2・その3にも該当

「楽都」や「劇都」として、市民が参加し、育んできた文化をさらに成長させ、仙台の魅力として国内外に発信していきます。

- ① まちに音楽があふれ、誰もが気軽に楽しむことができる機会を拡充し、音楽を「する」「聴く」「支える」文化を育て、仙台の文化としての発信に努めます
- ② 子どもたちをはじめとする若い才能を育み、世界に羽ばたくチャンスをつくり、「楽都」の基盤を支えます
- ③ 舞台のづくり手と支え手の育成を支援するとともに、活躍の場を広げ「劇都」にふさわしい舞台芸術の振興に努めます
- ④ 多様な市民が集い、感動を共有する場である劇場等を地域における文化拠点として運営し、文化の継承・創造・発信の場として活用していきます

2018-2020年の方向性

- ・ 3年ごとに開催する「仙台国際音楽コンクール」は、2018年度に本格的な準備を行い、2019年度に第7回開催（5月～6月）、2020年度の第8回開催の概要広報まで、一連の業務を想定し、制作を進めるとともに、継続的に地域の音楽文化振興に寄与する関連事業を実施します。
- ・ 12回の継続を経て市民に深く浸透した「仙台クラシックフェスティバル」を、新規性も加味しながら引き続き開催し、音楽ファンのさらなる拡大によって「楽都仙台」の充実を図ります
- ・ “劇場法”の制定で重要度が増す「舞台芸術振興」のための諸事業を、せんだい演劇工房10-BOXとホール系施設の役割を改めて相互に明確化しながら再整備し、個々の事業の目的を明確にし、有効性を高めます
- ・ 仙台市と検討を進めている今後の舞台芸術振興のヴィジョンづくりを継続し、事業体系全体の構造を強化することから、「劇都仙台」事業の充実を図ります

令和2（2020）年度 事業の概要

令和元（2019）年度は第7回仙台国際音楽コンクールを開催し、また、当年度から3カ年にわたり開催する「仙台舞台芸術フォーラム」のオープニングイベントを実施しました。

令和2（2020）年度は、第8回仙台国際音楽コンクールの実施概要公開に向けて準備を行うとともに、15回目を迎える仙台クラシックフェスティバルでは観客数の増加を命題としながら安定的な継続を図ります。加えて、2年目となる「仙台舞台芸術フォーラム」のモデル事業や基盤づくりを行います。

（1）音楽の振興と創造・発信型事業の推進

- ア 仙台国際音楽コンクール運営事業（市負担金／No. 48-54）
- イ 仙台クラシックフェスティバル（市負担金・協賛金・入場料・自主財源等／No. 5）
- ウ 仙台ジュニアオーケストラ運営事業（市負担金・受講料・入場料等／No. 55） *その3にも該当
- エ もりのみやこのふれあいコンサート（市補助金／No. 6）
- オ 市制施行記念コンサート（市委託料／No. 59）
- カ 地下鉄駅コンサート（市負担金／No. 36）

（2）舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進

- ア せんだい演劇工房10-BOX 現代演劇鑑賞事業（市補助金・自主財源・入場料等／No. 28）
- イ 市民能楽講座（市負担金／No. 26）
- ウ 能-BOX 施設活性化事業（市補助金／No. 31）
- エ 仙台舞台芸術フォーラム（市負担金／No. 38） *その5にも該当

（3）劇場・音楽堂の活性化

- ア 文化庁劇場・音楽堂等機能強化推進事業（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料／No. 9）

主な楽都仙台事業

- ・第8回仙台国際音楽コンクール準備
- ・仙台クラシックフェスティバル2020
15回目となる今回も、仙台国際音楽コンクール入賞者や仙台フィルメンバーのほか、仙台の音楽シーンを支える在仙音楽家や音楽を学ぶ学生など、楽都仙台がこれまで育んできた音楽的財産が集結する事業団ならではの企画を盛り込む。
- ・仙台ジュニアオーケストラ運営事業
公募・選考による公立のジュニアオーケストラ。音楽監督：平川範幸（上野学園大学非常勤助教）講師；仙台フィルハーモニー管弦楽団団員 団員定員122名
- ・もりのみやこのふれあいコンサート
障害のある方対象の仙台フィルハーモニー管弦楽団のコンサート。会場：仙台市泉文化創造センター

主な劇都仙台事業

- ・仙台舞台芸術フォーラム
- ・仙台・劇のまちトライアルシアター
10年間実施した「杜の都の演劇祭」に代わる新たな演劇振興事業として実施する。
- ・SENDAI OROSHIMACHI Art Marché（せんだい卸町アートマルシェ）
市民協働による卸町での舞台芸術フェスティバルを実行委員会と共同で開催する。
- ・せんだい短編戯曲賞事業
平成30年度から作品上演と作品募集を隔年で実施。当年度は第7回目の大賞を選出する。

<方針その5> 地域文化資源の活用

多様な分野や担い手との連携と交流を進め、地域や文化資源の新たな魅力発掘に努めるとともに、文化の力を地域の活性化や課題の解決に活かします。

- ① 自然や歴史、伝統など、地域に息づき、育まれてきた文化の土壌を発展させ、その魅力を高める活動を支援します
- ② さまざまな文化活動を介して他者への理解を促進し、多様な価値観と生き方を認め合う地域社会をめざします
- ③ 地域の課題や魅力の発見・発掘に努め、多様な担い手と連携して新たな地域文化を育む取り組みを支援します

2018-2020年の方向性

地域共生社会に対応した文化活動のあり方を模索し、地域や社会課題に対応した文化事業を実践していきます。

- ・施設来場者、文化芸術団体、施設近隣の方々など、さまざまな立場の方々と文化施設や文化事業のあり方について対話を行い、地域における幅広いニーズや意見を把握します。
- ・それらの知見をもとに、自然・環境、子育て、障害のある方の情報アクセス、震災の記憶・記録を残し伝え学ぶ環境などに対応した事業を模索し、各文化施設の特徴や資源を活かして実施していきます。
- ・特に、地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災については、2021年3月には10年目を迎えることから、震災から11年目以降の次世代に向けて、文化活動を通じた震災の経験や記憶の継承について、持続可能なあり方を模索していきます。
- ・仙台市文化プログラムやせんだい・アート・ノード・プロジェクトでは、社会の課題を見据え、地域の資源や人材を生かした文化事業を行います。

令和2（2020）年度 事業の概要

令和元（2019）年度は、せんだい3.11メモリアル交流館において「貞山堀より愛をこめて ～震災から8年後のふるさと～」など年間3回の企画展の開催や初のオリジナルグッズとなるサイダー発売など、施設の魅力を多方面へ発信しました。

令和2（2020）年度は、震災10年を迎えるにあたり注目度が増すことが想像される同施設が担う使命を再確認しながら、施設機能の強化を図ります。5年目となる「アート・ノード・プロジェクト」、最終年度を迎える東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」の実施にあたっては、地域や社会の課題を意識しながら、地域の文化資源を活かした事業推進を強化します。

（1）地域共生社会を見据えた事業

- ア 利用者や地域との運営懇談会（市指定管理料／No. 97, 107）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 地域交流促進事業（自主財源／No. 15）
- ウ 仙台市縄文の森広場 野外展示「縄文の森」の多目的活用（市指定管理料／No. 108）

（2）震災・復興に文化を通して向き合う事業

- ア せんだい3.11メモリアル交流館運営・各種事業（市受託料／No. 57, 58）
- イ 仙台舞台芸術フォーラム（市負担金／No. 38） *その4にも該当

（3）地域・社会の課題を見据えた文化事業 *その3にも該当

- ア 「仙台市文化プログラム」公募・共催事業（市負担金／No. 37）
- イ 舞台芸術振興課人材育成事業（市負担金・文化庁助成金・自主財源・受講料等／No. 9）

（4）新たな地域文化創造にむけた事業 *その2にも該当

- ア せんだい・アート・ノード・プロジェクト（市補助金／No. 70）

せんだい3.11メモリアル交流館の主な事業

- ・企画展（年間3回程度）
東日本大震災の概要や実際の記録等で構成された常設展コーナーと併せ、震災メモリアルや地域再生のための心の復興を見据えた多様なテーマによる展示を企画。
- ・ワークショップ・講座等
震災復興メモリアルや地域の魅力発信に係るワークショップや講座等の開催。交流の場を創出する事業、ネットワークを構築するイベントなども実施。
- ・情報収集・発信事業
- ・関連物品販売業務
メモリアル交流館オリジナルサイダーなど施設にちなんだグッズの開発・販売。

公募による市民協働事業

- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた仙台市文化プログラム
仙台市、仙台市市民文化事業団、地元文化団体等が連携し、「文化芸術による震災復興」「文化芸術による障害者支援」「地域の文化芸術資源の活用」の3テーマで実施するプログラムの最終年度。

せんだい・アート・ノード・プロジェクト（5年目）の主な事業

- ・川俣正「仙台インプログレス」
沿岸部岡田地区貞山堀に現代美術家設計の橋を架ける、貞山運河に沿って長期展開されるプロジェクト。
- ・東北リサーチとアートセンター「TRAC」の運営
仙台・東北の資源や歴史を調査、表現、交流する拠点の運営を継続。
- ・市民協働により街なかで展開されるアートや文化の今をきくイベント「TALK」

3. 経営の強化に向けた取り組み

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

●人材の確保・育成

(1) 職員の専門性と能力の開発

- ア 他都市や他機関を含む研修機会の充実
- イ 専門性の高い人材の確保
- ウ 中長期的な育成の見地に立った異動・交流のしくみの検討

(2) 市民協働の推進

- ア 市民協働のさまざまな場面での推進
- イ ボランティアやサポーターの活動機会の拡大・ネットワーク構築

2018-2020年の方向性

- ・ 仙台市及び他機関の研修機会を積極的に活用します
- ・ 独自に企画する研修の分野や機会を拡大し、内容の充実を図ります
- ・ 職員個々の適性をもとに、キャリアアップやO J Tの観点を重視しながら、育成面でも有効な人事を行い、組織力の維持向上を図ります
- ・ 今後増加する職員の定年退職に備え、中長期の再雇用計画について検討を進めます
- ・ 各事業の実施を通して、外部のさまざまな方々と協働することから、仙台の文化芸術振興に欠かせない担い手の育成を進めます

令和2（2020）年度の取り組み

- (1) 独自企画研修の強化・回数増
- (2) 固有職員再雇用計画の作成
- (3) 助成事業等、市民活動支援事業の充実に向けた調査・検討
- (4) 継続中の市民協働型事業の再編に向けた検討、新たな協働事業の試行

●経営基盤の強化

(1) 運営基盤の強化

- ア 補助金助成金の活用／多様な資金調達手段の開発
- イ 新たな顧客やリピーターの開発／友の会制度の見直し

(2) 組織の強化

- ア 外部団体や企業との連携の促進
- イ 他都市や他機関との連携の促進
- ウ 組織内での情報共有の徹底
- エ チャレンジする組織風土への変革

(3) 安心・安全の確保

- ア リスク予防やBCP策定等による安心安全体制の構築
- イ 運営施設の案内やサイン表示のわかりやすさの向上
- ウ 運営施設の老朽度合等の把握／こまめな修繕

(4) 情報発信の強化

- ア ホームページの見直し
- イ SNS等の活用

2018-2020年の方向性

- ・ 基本財産及び退職給付引当資産の運用先の拡大を視野に、規程の見直しを含めて検討を進めます
- ・ 寄付取得の方法やその広報手法の調査・開発を行います
- ・ 外部資金獲得のための情報収集・共有を、組織内で徹底します
- ・ 「市民文化事業団友の会」制度の見直しを行い、文化鑑賞会としてのサービス・アップを図ります
- ・ ホームページの改善にむけ、調査・検討を継続し、システム改修を行います
- ・ 施設の指定管理を維持していくため、総合的な経営基盤の強化を施設の運営業務においても生かしていくとともに、次期申請に向けた新しい取り組みを開発します

令和2（2020）年度の取り組み

- (1) 全国の文化振興財団の寄付取得実績や広報の状況の調査
- (2) 文化庁・地域創造等による補助金制度の調査強化・活用拡大
- (3) リニューアルした新ホームページによる情報発信の強化

1. 3ヵ年の3年目（2020年度）作成の収支計画

【経常収益】		30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度
1	仙台市費	2,188,270	2,457,939	2,297,380
	指定管理料収益	1,553,964	1,590,673	1,590,153
	受託料収益	74,366	81,233	89,930
	市補助金	406,343	414,813	458,910
	市負担金	153,597	371,220	158,387
2	その他	230,600	268,081	224,423
	基本財産運用益	16,321	15,807	15,807
	特定資産運用益	4,905	4,948	4,917
	事業収益	155,302	191,362	158,014
	助成金等	53,972	55,864	45,585
	雑収益	100	100	100
合計		2,418,870	2,726,020	2,521,803

【経常費用】		30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度
1	人件費	1,038,469	1,076,598	1,090,669
2	事業費	1,374,872	1,642,101	1,383,287
3	管理費	6,819	6,736	53,488
合計		2,420,160	2,725,435	2,527,444

【経常増減額】		30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度
		▲ 1,290	585	▲ 5,641

【参考】施設公募等スケジュール

施 設	管理形態	選定方法	期間	2018年度	2019年度	2020年度
仙台市青年文化センター	指定管理施設	非公募	5年	第4期		
				(2年目)	(3年目)	(4年目)
仙台市泉文化創造センター ※民間企業2社とグループを構成	指定管理施設	公募	5年	第4期		第5期
				(4年目)	(5年目)	(1年目)
仙台市歴史民俗資料館	指定管理施設	非公募	5年	第4期		
				(2年目)	(3年目)	(4年目)
先史遺跡保存活用施設 ※仙台市富沢遺跡保存館及び仙台市縄文の森広場	指定管理施設	非公募	5年	第4期		
				(2年目)	(3年目)	(4年目)
仙台文学館	指定管理施設	非公募	5年	第4期		
				(2年目)	(3年目)	(4年目)
せんだいメディアテーク	指定管理施設	非公募	5年	第4期		
				(2年目)	(3年目)	(4年目)
せんだい演劇工房10-BOX	設置運営管理施設	—	—	運営		
せんだい3.11メモリアル交流館	受託管理施設	—	—	運営		

公益財団法人仙台市市民文化事業団 令和2年度 事業計画書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業（市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進）

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考 (単位:千円)

(1)芸術文化振興事業

1)ミュージアム等周年記念事業

①せんだいメディアテーク開館20周年記念事業

せんだいメディアテークの開館20周年を記念し実施する。

1	せんだいメディアテーク開館20周年事業	通年	メディアテーク	7,000	0	
令和3年1月に迎える開館20周年を機に、同時代性あるあらたなメディアテーク像を打ち出していくために、現行の課題を乗り越え、次の10年の方向性を示すための事業を実施する。 ①せんだいメディアテーク円卓会議「ASSEMBLY」(20周年記念フォーラム part2)(1月23日または24日 オープンスクエア):20周年イベントとして実施した伊東豊雄氏の講演(令和2年1月26日実施)に続く、20周年を記念するフォーラムの第2弾。メディアテークのコンセプトとなる3憲法に基づきながらも、時代の変遷を踏まえたより具体的な活動の方向性を、これまでメディアテークに関わったさまざまな有識者、アーティスト、市民を招き、ともに円卓を囲み、検討する。 ②記念誌発行のための編集作業(通年):全国の書店に流通する書籍として、20周年記念誌を作成する。上記のフォーラムをあらかじめ編集者とともに、読み物として掲載可能なものとするよう座組み、催事の設計を行う。あわせて、令和2年度開催予定の展覧会「ナラティブの修復」の記録も掲載する。なお、フォーラムの実施時期が1月であることから、編集作業までとし、書籍としての発行は令和3年度としたい。 ③ラウンジ展示「せんだいメディアテーク・クロノロジー」(9月～1月 7階ラウンジ):メディアテークのこれまでの取り組みを俯瞰視し、今後の展開を構想しやすくすることを目的に、建設期から現在までの様々な出来事を、4つの年代にそって写真、映像、資料、証言などで辿る展示を行う。 ④調査(通年):メディアテークのさらなる可能性を明示することを目的に、図書館や貸館の対象とならないエリアを用いた、通常の事業の枠組みを超えた活動を実施するための調査を行う。本事業は一時的なイベントに留まらない「仕組み」や「仕掛け」といった、今後の館の資源となるような展開を目指す。						

2)経常事業

①市民文化事業への支援事業

2	支援・助成・協力事業	2回募集	—	20,905	20,026	市補助金 20,026
市内で活動する団体・個人が行う文化芸術事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力を行う。「支援事業」は、年4回発行の文化情報誌『季刊まちりょく』に市民企画事業の告知を掲載する広報サポート。「助成事業」では仙台市の文化芸術の振興と普及啓発および郷土の歴史継承を推進するため、文化活動の経費の一部を助成する。助成額は助成審査会により決定。「協力事業」では、特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設等での各種協力などを行う。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋などの協力を行う。また、当年度は助成事業のリニューアルに向けて検討を進める。						
3	名義後援	通年	—	0	0	
団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行う。						

②公演事業

4	宝塚歌劇 月組 全国ツアー仙台公演	9/18,19	仙台銀行ホール イズミティ21	30,890	47,126	入場料 46,276 広告料 350 その他 500
仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を実施。2日間・4ステージで第1部ミュージカル、第2部レビューを上演する。						入場者:のべ5,800人
5	仙台クラシックフェスティバル2020	10/2～4	日立システムズホール仙台他	89,001	85,701	市負担金 23,300 入場料 51,876 協賛金他 10,525
2006年(平成18年)に事業団設立20周年記念事業として、数居の高いクラシック音楽に親しみを持ってもらう、より多くの方々にホールで聴く生演奏の魅力を届けることを目的に立ち上げ、今年15回目を迎える。 ・ホール公演は、45分と60分の公演時間、チケットは一般の公演と比較し手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらう。地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、仙台銀行ホール イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として3日間で85の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートのほしご鑑賞を推奨する。 ・無料で鑑賞できる地下鉄駅コンサート、街なかコンサートを設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとする。 ・これまでの仙台国際音楽コンクール入賞者や仙台フィルメンバーの個性を活かした公演の他、仙台の音楽シーンを支える在仙音楽家、学校で音楽を学ぶ学生など、楽都仙台がこれまで育んできた音楽的財産が集結する仙台市市民文化事業団ならではの企画を盛り込む。						入場者:のべ38,000人

6	もりのみやこのふれあいコンサート	12/4	仙台銀行ホール イズミティ21	3,844	3,844	市補助金 3,844
	障害のある方とご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催しているコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場希望者が増えており、昨年は申込者多数により抽選を行った。平成26年度から会場を仙台銀行ホール イズミティ21大ホールとし、より多くの車椅子の方の受入れを可能とするともに、仙台市立中学校の特別支援学級の生徒も招待している。事前申込制・無料。仙台市及び仙台フィルと共催。					入場者:1,070人
7	新春いずみ寄席	1/11	仙台銀行ホール イズミティ21	3,077	2,564	入場料 2,564
	新春の看板事業として春風亭小朝師匠を招いて、東京の定席寄席と同規模の広さの小ホールを会場に臨場感のある落語寄席を実施する。13時～、16時～の1日2回公演を行う。					入場者:のべ600人
8	共催事業	通年	日立システムズホール仙台他	1,568	0	
	放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催する。継続実施している仙台青葉能、人形浄瑠璃 文楽(負担金各500千円)に加え、当年度は仙台オペラ協会第45回記念公演(負担金1,000千円)、第57回宮城県芸術祭(仙台市市民文化事業団賞の授与)、東京オペラシティリサイタルシリーズB→C「會田瑞樹パーカッションリサイタル」(負担金なし)、小山実稚恵ピアノシリーズ(負担金なし)、辻井伸行プレミアム・リサイタル2020、ミュージカル「チョコレート・ドーナツ」(いずれも仙台放送、負担金なし)他を共催する。					

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施する。

9	劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (青年文化センター文化庁文化芸術振興費補助事業)	通年	日立システムズホール仙台 (改修工事期間中は他会場)	87,101	85,970	入場料等 8,980 市負担金 45,400 文化庁助成金 31,590
仙台市の文化芸術振興の中核施設として、育成・普及・創造の3つの社会的役割を果たす日立システムズホール仙台の発信事業。国からの補助金(文化芸術振興費補助金)を財源とした助成を受け、仙台市、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催。令和2年10月～の大規模改修工事にもなう休館中は、市内他会場を使用して実施する。 <人材養成事業> ①セミナー「社会包摂と文化芸術を考える」(仮称)(8・9月 エッグホール):舞台芸術はじめ文化芸術事業に携わる方や興味のある方を対象に社会包摂と文化芸術に関する有識者を迎えての基調講演や全国での取組事例などを基に文化芸術における「社会包摂」についてのセミナーを実施する。 ②せんだいダンスプロジェクト(6月～3月 練習室、10-BOX、宮城野区文化センターほか):未就学児の親子、小学生、中学生以上などプログラム毎に年代等の対象をしばりこみ、ダンスに関する複数のプログラム実施により、多様な個性ある人材を育成する。 <普及啓発事業> ③放課後ダンスワークショップ(8月～1月 市内児童館及び学校等):仙台市内の児童館施設や学校と連携し、放課後の時間帯にダンスワークショップのアウトリーチ事業を実施する。国内外で活躍する山田うんダンスカンパニー所属の様々なダンスジャンル出身のダンサーを講師に招へい予定。 ④青少年のためのオーケストラ鑑賞会(鑑賞会:6月・7月・8月 コンサートホール):市内小・中学校約220校をホールに招いて開催する本格的なオーケストラの演奏会(全14回)。出演は仙台フィルハーモニー管弦楽団。小学生用と中学生用の別プログラムによる公演を行う。 <公演事業> ⑤名曲のちから「オーケストラ・スタンダード 全3回予定」(7月・9月 コンサートホール):平成23年度からの継続企画。オーケストラ作品の名曲をリーズナブルな入場料で提供するシリーズコンサート。第1回目は生誕250年を記念したベートヴェンの序曲と交響曲、仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門審査委員長の堀米ゆず子をソリストに迎えたモーツァルトの協奏曲で構成する。第2回目・3回目はヨーロッパ浪漫紀行として、東欧の名曲を中心に構成。 ⑥こどもとおとなのためのクラシック入門「仙台フィルのクリスマスコンサート Vol.3」(12/25 太白区文化センター楽楽ホール):親子や三世代で楽しむことができる、クリスマスや冬の定番曲と、誰もが耳にしたことのある「となりのトトロ」を、オーケストラの演奏で楽しんでもらうコンサート。 ⑦こまつ座公演「人間合格」(8/1 シアターホール):仙台文学館初代館長・井上ひさしが座付作家をつとめたこまつ座の「人間合格」を上演する。東北出身であり、日本近代文学史を代表する小説家、太宰治を取り上げたこの評伝劇は、これまで何度も上演されてきた代表作。井上が信頼した鶴山仁が演出を手掛け、新たなキャストで上演する。 <その他> ⑧青年文化センター事業評価(通年):PDCAサイクルと外部評価体制を確立し、事業の有効化をはかるため、事業の評価を実施する。						

10	青年文化センター活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	3,461	261	コピー料収入 261
	地域資源等を活用しながら、文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を行う。当年度は大規模改修により10月から休館となるため、実施事業を絞りこむとともに、リニューアル後に向けた事業調査を行う。 ①日立システムズホール仙台パフォーマンスフェスティバル(5/31):開館30周年の節目に、施設の利用者及びゆかりのある市民やアーティストにより、音楽・ダンス・ジャグリング・各種ワークショップなど多ジャンルにわたるフェスティバル事業を全館を活用して行う。パフォーマンス広場のコンテンツでは一部出演者を募り、より開かれた事業展開を図る。 ②青年文化センター施設機能強化事業群 ア.地域連携事業(通年):地域に根差した施設としての役割を担うことを目的に、旭ヶ丘地域のコミュニティ事業「旭ヶ丘わんぱく森²(もりもり)がっこ」や旭ヶ丘市民センターなど諸機関との連携協働を継続し、地域活動への貢献に努める。 イ.フリースペース活用事業(通年):エントランスホールなど共有スペースを活用した情報発信や賑わい創出について、方法を探りながら取り組む。財団の出版物を閲覧できる「サラダ文庫」を継続するほか、劇場・音楽堂等機能強化推進事業など当館を創造拠点とする各種事業との連携強化を図る。 ウ.諸室活用(市民参加・体験・交流)事業(調査・準備):当館が有する多様な諸室を有効活用しながら、参加者が積極的に体験、交流できる事業モデルについて調査・準備を行う。 エ.ホール活用事業(調査・準備):ホールの特長を活かすとともに、施設目的や市民のニーズに沿った事業について調査する。実施にあたっては、他施設との連携を推し進めノウハウの共有を図るなどの手法を取り入れながら、より効果的な実施を目指す。 オ.共通経費 ③コピーサービス事業(通年):施設利用者用のサービスを継続して実施する。					③は収益事業
11	泉文化創造センター活性化事業	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	5,870	3,507	入場料他 2,592 助成金 900 販売手数料収入 15
	ホール施設等の利用促進に向けた活性化事業。 ①市民協働によるロビーイベント(年3回):施設のカラーづくりとして普段直接観る機会の少ないジャンルを取り上げ、広く市民に紹介し、会館全体の活性化を図る。ホールの保守点検日に使用せずに空いているホールロビーを活用し、地域を拠点に活動する団体との協働で事業を実施する。当館のホールでイベントを実施する個人、団体出演を依頼することも検討し、その場合には同イベント実施に向けての事前PRイベントとしての性格を持たせ、施設利用者に対する会館の広報支援の一助としても活用する。 ②ホール見学会(1日2回公演):普段目にする機会の少ない大ホールのバックステージを中心に、音響・照明等の機材の操作体験を行う参加型の見学会を実施する。小学生を対象にして開催し、親子で楽しみながら舞台に興味を持ってもらう内容とする。指定管理者グループ構成団体の俣東北共立の舞台職員が企画段階から参画し、協働で運営する。 ③ピアノ弾き込みボランティア運営(年3回程度):大ホールのスタインウェイ社製コンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアの協力によりピアノ弾き込みを実施する。 ④市民ギャラリー・エントランスロビーでの展示(市民ギャラリー／1回1週間程度、ロビー／通年):地域に縁のある団体や個人との協働で写真または絵画等の展示を行う。市民ギャラリーの利用促進のためのモデル事業となるよう比較的簡易な設備で、鑑賞者に施設利用を喚起するよう工夫をする。また、館内の有料スペース以外の活性化のために、エントランスロビー等において時節に合わせた小規模な展示等を実施する。 ⑤コンサートシリーズ「イズミノオト」(7月4日、11月23日、2月23日 小ホール):仙台市泉区出身で在住の音楽家による音楽監修で良質なコンサートを開催、クラシック音楽鑑賞の楽しみ方を掘り下げて伝えていく幅広いプログラムを実施する。 ⑥避難訓練コンサート(秋頃1回):ホールでのコンサート本番中に地震が発生したという想定で、実際に来場者を募って行う避難訓練を兼ねたコンサートを開催する。 ⑦泉中央地区プレイガイド事業(通年):利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、当館ホールを会場に実施されるイベントの入場券を受託販売する。また、仙台市市民文化事業団主催の入場券も併せて取り扱い、仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバルについては専用端末を用いて一般販売ならびに友の会先行販売に対応する。また、入場無料の整理券配布等については当館以外を会場とするイベントを含めて積極的に取り組む。					⑦は収益事業
④ミュージアム活性化事業						
ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図る。						
12	猿舞座のさるまわし	6/7	榴岡公園 歴史民俗資料館	40	0	
	榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の13回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気伝統芸に親しむ。					参加者:800人
13	れきみん秋祭り	10/24,11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	3,048	1,194	助成金 1,148 刊行物販売 46
	歴史民俗資料館と10-BOXが共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の14回目。「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの伝統芸能の競演と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手業の披露、併せてジャグリングやコマ回しなど、大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントとして開催。					参加者:7,000人
14	歴史的な生活体験教室	5月～11月	富沢遺跡保存館他	461	159	古代米販売 120 参加料 39
	当館の敷地や隣接地を利用して、米づくりなど富沢地区周辺で行われてきた昔の生活要素を体験する教室を行う。参加家族が協働して作業することを主眼に置き、歴史体験の活動を通して親子の絆を深める機会とする。現在、館隣接地の水田や畑の所有者に協力を打診しているが、可否の判断が得られていない。このため、事業内容は流動的であるが、対象を親子20組程度とし、年間を通じて6回程度の作業及び行事を予定している。また、古代米など収穫物が一定量得られた際には、一般来館者を対象とした工作・試食体験を行い、収穫物の一部はグッズとしての販売も検討する。					対象者:親子20組

15	地域交流促進事業	夏～秋季・冬季	富沢遺跡保存館	367	87	市指定管理料 87
	地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすいかたちで野外展示「氷河期の森」の価値の共有や保全への共感を得ることを目的とする。一昨年度より指定管理業務「たのしい地底の森教室」に結び付けて実施しており、これまで参加者から好評を頂いた閉館時間の施設・野外展示利用など、指定管理業務では実施が困難な内容を自主財源事業として実施する。今後さらに地域の人材と組織を活かしたイベントとなるよう企画し、地域活性化に寄与していきたい。また、季節によって大きく変わる当館の魅力を広く知っていただくために冬季以外にも実施したい。					
16	歴史・芸術融合事業「ミュージアム・シアター “狩人登場！”」(仮)	通年	富沢遺跡保存館他	1,500	0	
	市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団 短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行う。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指す。これまでの活動を、館外も含めてより多面的に展開し、演劇要素を強めた実験的な作品の創作と上演を行うなど、ミュージアム・シアターの可能性を広げ、発表機会や発表媒体を拡充する。					
17	映像・記録発信事業(仮)	通年	富沢遺跡保存館	510	0	
	写真および動画の撮影・編集にかかわるワークショップを複数回開催する。写真や動画を活用できるソーシャルネットワークサービス(SNS)の増加により、市民が情報の受信者であると同時に発信者となっている。市民目線の写真および動画は、閲覧者にとって具体的な施設利用の提案となり、来館を促すと考えられる。参加者には施設の魅力を見つけ出して作品を制作してもらい、その作品は館のホームページなどで公開する。あわせて、地域に根ざした博物館として地域情報の記録・収集も行い、当館と地域の情報をアーカイブしていく。					
18	縄文祭復元事業「縄文まつり復元と創造プロジェクト」	通年	縄文の森広場	2,070	300	助成金 300
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、「まつり」の復元と創造を目指してこれまで調査研究活動を行ってきた。平成29・30年度には、市民と一緒に「草舟づくり体験」を行い、乗船体験した。また、調査研究活動の成果を公開するイベントとして、「縄文人の記憶の宴」を実施した。本イベントは、縄文時代をイメージした演奏・舞・食・火をテーマに、市内の劇団員や市民が縄文人に扮して巨大な火祭り・縄文の音楽・踊りを行ったものである。当年度も引き続き、「草舟づくり体験」・「縄文人の記憶の宴」のイベントを継続して行う。					
19	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	101	0	
	平成28年度から「ドッキーをつくろう」と題し、山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、お菓子づくり考古学者下島綾美氏を招いて土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて山田上ノ台遺跡および縄文文化について学ぶイベントを近隣の上野山児童館と連携して実施してきた。また、オリジナルメニューの開発として、3次元計測によるミニチュアの土器型を製作し、縄文土器チョコづくりを実施した。当年度も引き続き、こうした楽しみながら縄文文化に触れられるイベントを行う。					
20	展示手法の開発・導入	通年	縄文の森広場	1,009	0	
	新たな展示手法の開発と導入を図るための新事業とする。事業の柱は「リビングヒストリー」と「3次元計測」である。令和2年度は、開発のための期間として、「リビングヒストリー」の国内外の研究者や実践者を招聘し、技術・知識をスタッフが習得する。一部公開しながらWSを実施する。「3次元計測」は将来的にイベントや展示に活用可能なデータを作成するため、ハイスペックPCをリースしデジタル写真計測を行う。そのための技術的なWSも行う。					
21	仙台文学館まつり	8/23	仙台文学館	220	20	参加料 20
	平成21年度に開催して大変好評であった「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続して開催。文学館に一層親しんでもらう企画とする。夏休みのこども文学館の時期に合わせ、子どもを視野に入れたステージやスタンプラリーを実施。秋以降の企画に繋げ、リピーターを増やす工夫をする。					
22	ライブ文学館「佐野洋子の世界(仮)」	1/30	仙台銀行ホール イズミティ21	2,470	1,290	入場料 1,290
	令和2年度冬の特別展「佐野洋子の世界(仮)」の開催に合わせて、代表作『100万回生きたねこ』の朗読に音楽や映像を組み合わせたステージと、関係者によるトークの2部構成で実施。文学との出会いの場を広げ、「文学が息づく都市」仙台的な新たなブランドを醸成し、広く街中に文学の言葉を届け、文学作品の新たな味わいと楽しみ方を提示する。					
23	ミュージアムシアター 展示室劇場	冬期	仙台文学館	330	0	
	仙台文学館の常設展示の柱である土井晩翠と島崎藤村や、常設展示室リニューアルに伴い、新たに取り上げた作家など、積極的に紹介する試みとして、生涯や作品世界を元に短い演劇に仕立てて展示室内で上演する。来館者が立体的にその作家を感じ、作品世界などに興味関心を深める手助けとするとともに、この手法を通じて文学と演劇の新しい魅力や楽しみ方を提案する。					
24	smtホスピタリティ向上事業	通年	メディアテーク	600	0	
	①親子のための居場所づくり支援事業：子育て世代の親子連れや児童・生徒の利用促進に向け、館内の様々な空間を魅力的に演出・活用する「場」づくりを行う。オープンスクエアでの「こどもスクエア」など。 ②メディア活用による2階映像音響ライブラリー活性化事業：2階映像音響ライブラリーとシアターの連動を図る活用モデル事業。映画文化の活性化、利用者間の交流を通じ、「our library & theatre (我らがライブラリー&シアター)」という意識をもつ利用者を育む。通年開催。 ③オープンスクエアでの音楽系事業：オープンスクエアにピアノを設置し、来館者に自由に弾いてもらう。客席は設けず、『往来に突然現れるピアノと音楽』としてオープンスクエア空き日に実施する。【参考】オープンピアノ、駅ピアノ、空港ピアノ					

25	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	1,180	1,683	刊行物販売 1,420 その他 263
	ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行う。 ①歴史民俗資料館グッズ:昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図、明治13年宮城県仙台全図、明治17年仙台市街絵入明細全図、仙台北下絵図の継続販売と、新規復刻地図の制作販売。(支出207千円、収入700千円) ②富沢遺跡保存館グッズ:氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ(氷河期の森の仲間たち・リース等)、編布グッズ(コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ)を販売。(支出85千円、収入85千円) ③縄文の森広場グッズ:縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの製作と開発。(支出185千円、収入185千円) ④仙台文学館グッズ:前年度までに制作し来館の記念などとして人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売する他、特別展に関連したグッズを制作を依頼し来館者のニーズに応える。(支出240千円、収入250千円) ⑤メディアテークグッズ:ミュージアムショップ等と共同開発してきたオリジナルグッズの継続販売と新規制作を行う。(支出463千円、収入463千円)					収益事業 *収支は損益ベース
⑤劇都仙台2020事業						
都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑤の体系に基づき実施する。 ①良質な公演の機会の拡大 ②表現者の発掘・育成 ③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ④教育や福祉など他ジャンルとの連携 ⑤情報交流や協働						
26	市民能楽講座	9/21	日立システムズホール仙台	4,065	4,065	市負担金 2,430 入場料 1,635
	能の公演を通して市民に伝統芸能の魅力を伝える企画として継続実施している事業。「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。当年度は、喜多流「融」等を上演。					入場者:555人
27	舞台スタッフ☆ラボ	2月	演劇工房10-BOX他	1,623	1,623	市補助金 808 受講料 165 助成金他 650
	舞台監督・音響・照明・舞台美術・衣装・小道具部門の基礎コースや、演劇公演のスタッフワークを体験する発展・創作コースなど、新規部門の開設や、新たな組織・団体と連携し、参加者の声を反映しながら実施。だれもが舞台芸術や表現の楽しさと奥深さに触れる機会を体験でき、更なる人材育成と市民活動・舞台芸術活動の活性化を目指す。宮城野区文化センターとの共催により開催。					対象者:50人 観客:100人
28	10-BOX鑑賞型プログラム	通年	演劇工房10-BOX他	6,477	4,576	市補助金 4,276 入場料 300
	①仙台・劇のまちトライアルシアター:10年間実施した「杜の都の演劇祭」に代わる新たな演劇振興事業として、テーマを設けた地元の創作公演、劇場以外での公演、地元の演劇関係者と意見交換を行うミーティング事業などを行う。 ②「SENDAI OROSHIMACHI Art Marché(せんだい卸町アートマルシェ)」:県内外の先駆的な作品・評価の高い若手劇団の演目を一堂に集め、数日間の演劇祭を開催。 ③共催公演:鑑賞の機会を提供し、観客層の拡大につなげる。さらに、県外の劇団と在仙の演劇関係者との交流の場を創出し、在仙劇団の活動の幅を広げるもの。					対象者:のべ1,800人
29	演劇と表現の講座	通年	演劇工房10-BOX他	965	965	市補助金 790 受講料 175
	身体表現に着目し、数日間にわたるワークショップを通して、舞台芸術を幅広く体験し多角的に学ぶ講座。講師は舞台(演劇、舞踊、古典芸能)、映画、映像など様々な分野の専門家から選抜し、独自の切り口を通して表現を体験する。					対象者:50人
30	せんだい短編戯曲賞	通年	演劇工房10-BOX他	1,756	1,756	市補助金 1,756
	平成24年度から実施している短編戯曲を対象とする戯曲賞。全国公募により次代の演劇を担う人材を発掘し、冊子発行による作品の上演機会の創出、若い世代の作家の作品発表の場を提供する。平成30年度から作品上演と作品募集を隔年で実施することとなり、今回は第7回目の大賞選出となる。					
31	能-BOX 経常事業	通年	能-BOX	768	768	市補助金 663 受講料 105
	能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるため、「こどものための能講座」(能楽師:山中遼晶)、「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会主催)などを行う。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しも含め、利用者の開拓を図ってゆく。					対象者:70人
32	共通経費(事業間連携活動等事務費)	通年	演劇工房10-BOX他	1,411	275	市補助金 121 刊行物販売 154
	劇都仙台事業や教育・福祉など他の専門組織との協働事業等にかかる共通の経費。ホームページの更新費や発送料の支出、せんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売・次年度の事業に向けた視察や調査研究など、事業間連携活動に必要な業務。					
33	演劇-社会アクセス事業	通年	演劇工房10-BOX他	200	0	
	音響・照明等の機材貸出や、各団体の舞台芸術活動への協力を通して、舞台芸術による社会貢献の促進を図る活動。さらに、教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、小学校での学習発表会のサポートや高等学校演劇協議会による「仙台市高等学校演劇祭」を共催で実施する。					対象者:200人
34	音声学ワークショップ	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者への指導も行う。3月下旬には1年間学んだ成果を披露する発表公演を行う。事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催。					対象者:70人

35	大衆紙芝居ネットワーク事業	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	当事業団が平成17年度に実施した「大衆紙芝居ワークショップ」の参加者による団体「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動(オリジナル作品の製作、上演、作品展など)に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力を行う。					対象者:10人
⑥創造都市推進事業						
仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する。						
36	地下鉄駅コンサート	9/26,27、10/3,4	地下鉄駅構内	1,184	1,184	市負担金 1,184
	仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催する。					
⑦2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」事業						
37	仙台市文化プログラム事業	通年	—	7,218	7,218	市負担金 7,218
	①「仙台市文化プログラム」公募・共催事業:オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における多様な資源を生かした事業を推進し、新たな成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果が一過性にとどまることなく令和2年以降も継続的に波及効果をもたらすことを目指し、企画提案者と仙台市、事業団の3者協働で実施する。最終年度である令和2年度は、令和元年度に公募により採択され実施した4事業(平成30年度からの継続事業を含む)を継続して実施する。 ②beyond2020プログラム認証事務:仙台市が「beyond2020」認証組織となり、事業団はその認証事務の一部を担う。					
⑧東日本大震災10年に向けた「仙台舞台芸術フォーラム」事業						
38	仙台舞台芸術フォーラム	6月～3月	日立システムズホール仙台 演劇工房10-BOX他	11,670	11,670	市負担金 11,620 入場料 50
	東日本大震災の記憶と経験をふまえ、過去・現在・未来を橋渡しする舞台芸術作品を創造・発信する舞台芸術フォーラムのモデル事業や基盤づくりを行う。当年度は、震災を主題にした舞台芸術作品の上演やトークイベント、共催・協力公演のほか、新たな制作やリサーチを行うアーティスト支援とその環境形成、アーカイブ・情報発信を実施し、大震災から10年を迎える令和3年とそれ以降に向けて、文化芸術から震災伝承を担う人材の発掘と育成を行う。					
⑨土井晩翠顕彰事業						
39	土井晩翠顕彰事業	通年	—	1,046	1,046	市負担金 1,000 刊行物販売 46
	平成29年度末をもって解散した土井晩翠顕彰会の事業を引き継ぎ、詩人・土井晩翠の業績と遺徳を顕彰する事業を行う。具体的には、晩翠わかば賞・あおば賞の募集と賞の贈呈、ならびに毎年10月19日の土井晩翠の命日に、「荒城の月 市民大合唱」などを実施するとともに、晩翠草堂の展示品の管理と展示内容の充実に努める。					
⑩育成・普及事業						
子どもたちが芸術文化に触れる機会を広く提供するとともに、アーティスト及び指導者の育成を図る。						
40	芸術家派遣事業	6月～2月	各学校・地域	0	0	
	「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が文化庁から業務受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供する。前年度実績として120箇所に派遣実施。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行う。実行委員会の予算規模は1,700万円程度を見込んでいる。					
41	東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト	11/28,29	仙台銀行ホール イズミティ21	1,199	0	
	仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝大、仙台市、事業団の共同主催により、事業団設立30周年記念事業として始まった。令和2年度はヴァイオリン、ピアノの2部門を実施する。日本最高レベルの音楽教育に触れることで、地域で音楽に取り組む子どもたちのモチベーション及び技術の向上、地域で音楽教育に取り組む指導者の指導力向上、音楽教育・演奏技術への市民の理解を深める催しとする。					受講生:10人 入場者:480人
42	文学館で言葉を楽しもう	通年	各学校・地域	250	0	
	小・中・高校の児童や生徒に、仙台文学館施設への興味、文学への興味関心を惹起し、感性や表現力、知識を深めることに力点を置いたプログラム。常設展示で紹介されている文学のこぼれを耳で味わい楽しむワークショップや、短詩形文学の創作ワークショップ、また市内の団体の協力を得て民話語りの奥深さを味わってもらうようなカリキュラムを実践。バスを手配し平日の授業枠における文学館への来館・利用のハードルを低くすることで、市内小・中学校の文学館利用を促し、かつ利用した児童生徒の保護者層にも来館を促す契機とする。					
⑪出版事業						
事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与する。						
43	出版物の販売継続事業	通年	—	20	110	刊行物販売 110
	①仙台文学館刊行物販売事業:『仙台本のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』『ユキユキドンドン スズキヘキ詩集』など、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続して販売。(支出0、収入60) ②『仙台戯曲賞シリーズ』販売事業:『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売の他、webサイトからの申込みにより継続販売する。販売価格は1,000円(税別)。(支出8、収入11) ③『文化芸術の社会再生力』販売事業:事業団設立20周年記念事業として実施した連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力。」における鼎談と講演録を採録したブックレットを継続販売する。(支出3、収入9) ④『RE:プロジェクト記録集』販売事業:平成23年度から27年度まで実施した事業「RE:プロジェクト」の成果物(『RE:プロジェクト通信』5年目のRE:プロジェクト通信)に活動の記録や振り返りを加えて1冊にまとめた本を継続販売する。(支出9、収入30)					

⑫広報事業等

44	広報事業	通年	—	5,139	4,916	市補助金 4,916
	文化情報誌『季刊まちりょく』の発行(年4回)を継続する。当事業団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介していく。また、前年度にリニューアルを行った事業団ホームページを有効活用し発信力の強化を図るほか、報道機関等への情報提供を随時行う。					
45	文化情報編集室	通年	—	1,200	0	
	仙台市域の文化資源について、新たな情報発信の仕組みや媒体のあり方を市民や文化団体とともに作りあげるための場「文化情報編集室」を設ける。この編集室では、文化団体・アーティスト・市民等とともに、文化情報の収集・編集・発信を行う。 当年度は、仙台市内の本屋・古本屋をはじめとした本に関する情報発信をテーマに事業を実施する。 ※この事業は、各課・施設の職員有志からなる組織横断的なプロジェクトチームによって企画・実施し、これを通じて、事業団内の人材育成や企画のノウハウ共有を実践的に行う場となることを目指す。					
46	市民文化事業団友の会運営	通年	—	3,548	1,900	友の会会費 1,900
	市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続する。月例通信「市民ぶんかレター」による当事業団事業他の広報、主催・協力事業における先行及び優待サービスの提供等。年会費1,000円。					会員:約1,900人
47	事業団事業全体にかかる共通事務費	通年	—	5,374	0	
	事業全体の調整、新事業の調査・企画、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務などの事務経費等。					

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業

令和4年に開催する第8回仙台国際音楽コンクールの準備を進める。

48	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	5,288	5,288	市負担金 5,288
	コンクール事務局の運営を行う。					
49	委員会運営	通年	仙台市内・東京都内	2,005	2,005	市負担金 2,005
	組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催する。					
50	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	1,715	1,715	市負担金 1,715
	第8回コンクールの審査委員及び実施要項を確定し発表する。					
51	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	12,922	12,922	市負担金 12,922
	公式ホームページやSNS、プレスリリース等により、コンクールの広報活動を行う。 第8回コンクール出場者募集に係る広報活動、印刷物作成等を行う。					
52	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	2,210	2,210	市負担金 2,210
	第8回コンクールでの活動に向けた研修などボランティア活動運営の事務局業務を行う。 ・ボランティアリーダーミーティングの開催 ・会場運営:コンクール関連事業及びせんくら2020の表方運営 ・広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、ボランティアブログ運営等 ・出場者サポート:コンクール期間中の活動の企画や勉強会等 ・ホームステイ受入れ:意見交換会 ・ボランティアプロジェクトチーム:第7回コンクール入賞者によるコンサート等の企画運営					
53	第7回仙台国際音楽コンクール 最高位入賞者副賞コンサート	通年	国内各地	17,519	17,519	市負担金 13,703 出演料等 3,816
	第7回コンクール最高位入賞者の副賞として、リサイタル出演や国内オーケストラとの共演の機会を提供し、CDの制作と音楽配信を行う。また、令和3年度及び4年度に実施する副賞の準備を行う。					
54	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	市内各所	3,428	3,428	市負担金 3,428
	・仙台の音楽文化振興を目的に、第7回コンクール入賞者と仙台市内のアマチュアオーケストラが共演する機会を設けるとともに、小中学校訪問コンサートを開催する。 ・仙台ゆかりの若い音楽家の活動支援とクラシック音楽鑑賞の普及等を目的に、街かどコンサートを開催する。					

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

55	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台 仙台銀行ホール イズミティ21	28,162	28,162	市負担金 18,814 受講料・入場料等 9,348
	・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管する。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託する。 ・8月に夏合宿を行う。 ・10月に「定期演奏会」を開催する。 ・3月に「スプリングコンサート」を開催する。					団員定員:122人

(4)演劇系練習施設運営事業

56	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX 能-BOX	27,561	27,561	市補助金 20,282 利用料等 7,279
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援していく。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えていく。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行う。					収益事業を含む

(5)震災メモリアル交流施設運営事業

57	せんだい3.11メモリアル交流館運営	通年	3.11メモリアル交流館	66,285	66,285	市受託料 66,235 受講料 50
	仙台市震災復興メモリアルの沿岸部拠点として、平成28年2月に地下鉄東西線荒井駅舎内に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営(①来館者の対応 ②事業の実施 ③管理業務の一部)を、職員常駐の枠組みとして、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行う。「震災の被害や状況を知り、その経験や教訓を学ぶ場」「東部沿岸地域の記憶を残し、継続的に地域再生への力を形成していく場」「東部沿岸地域への案内所・発着点」としての施設機能を持ち、様々な来館者・市民・住民の集う親しみやすい運営に努める。上記のような施設機能を実現するため、下記の事業を実施する。 ・企画展(年3回程度) ・震災復興メモリアルや地域の魅力発信にかかるワークショップ・講座等 ・館の運営に資する情報の収集 ・紙媒体、ホームページ等による情報発信(企画展やイベントの実施報告含む)					
58	せんだい3.11メモリアル交流館販売業務	通年	3.11メモリアル交流館	461	461	市受託料 461
	せんだい3.11メモリアル交流館の施設機能及び知名度の向上を目的とする物品の販売を実施するにあたり、販売関連業務及び売上管理に係る人員の配置と消耗品の購入等を行う。					

(6)芸術文化受託事業

(単位:千円)

59	市制施行131周年記念コンサート	7/6	仙台銀行ホール イズミティ21	4,400	4,400	市受託料 4,400
	仙台市の市制施行記念式典の一環として開催する仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。ソリストには第7回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第4位であり、国内外での活躍も目覚ましい北田千尋を迎える。					入場者:1,400人
60	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク	18,834	18,834	市受託料 18,834
	大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存・利活用する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の運営。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管する。③収集した資料の一部を、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、上映会や展覧会の開催など、さまざまな形で利活用する。また、今年度は震災から10年を迎えることから、コミュニティ・アーカイブ・フォーラム(草アーカイブ会議3)を開催する。					

2.定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

(単位:千円)

①仙台文学館普及啓発事業

61	特別展・企画展の関連事業	各展示の 開催時期	仙台文学館	689	689	市補助金 142 助成金 547
	特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えていく。 ①企画展「佐々木俊郎展」関連:作品世界に踏み込んだ読書会、文芸評論家による講演会、編集者による対談などを開催する。 ②「こども文学館 えほんのひろば みちのく妖怪ツアー」関連:作家による妖怪談義や参加型の妖怪クイズ大会ほか、市内で活動するグループによるお話会や、親子向け創作教室などを開催。 ③特別展「安野モヨコ展」関連:安野モヨコによるトークライブやサイン会、創作技法を用いたワークショップなどを開催。 ④特別展「佐野洋子の世界」関連:関係者による講演会や佐野洋子を敬愛する作家による講座、一般参加者による佐野洋子作品のビブリオトークなどを開催。					

62	ことばの祭典－ 短歌・俳句・川柳への誘い	6/21	仙台文学館	470	470	市補助金 470
	短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」を選ぶ。					
63	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	3,240	3,240	市補助金 76 受講料 2,635 その他 529
	文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどを実施し、文学の振興を図る。 ①佐伯一麦エッセイ実作講座：館長の作家・佐伯一麦によるエッセイの鑑賞と実作指導の連続講座。通年で6回の開催を予定。 ②仙台文学館ゼミナール：近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースに加え、新たに古典芸能を楽しむ部門を設け、各講座をそれぞれ3～5回連続で開催する。 ③仙台朗読祭、詩のリーディングイベントなど：広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読してもらう仙台朗読祭や、地元詩人によるポエトリリーディングなど、文学作品の朗読イベント。					
64	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	0	0	
	県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行っていく。					
65	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
	市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行う。					
66	情報誌の発行	通年	—	1,195	1,195	市補助金 1,195
	文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続する。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図る。					
67	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
	絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図っていく。「こどもの本の部屋」を会場とした、近隣児童館との連携による乳幼児向け事業も実施する。					
68	文学館友の会の支援	通年	—	0	0	
	会の事務局を担当し、文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施。					
69	出版物等の販売	通年	—	651	651	市補助金 417 刊行物販売 234
	佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座、小池光短歌講座の記録集を制作・販売する。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売する。					

3.定款第4条第5号の事業（文化芸術等に関する生涯学習の支援）

番号	事業名		期 日	会 場	支出	収入	収入備考
	事業内容						入場者数等見込・備考
(単位:千円)							

①せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業

70	せんだい・アート・ノード・プロジェクト	通年	メディアテーク	25,000	25,000	市補助金 25,000
	優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する。「川俣正/仙台インプログレス」や「東北リサーチとアートセンター」でのプロジェクト、人材育成、市民啓発のための「TALK」や「アートノード・ミーティング」などの事業とこれらに伴う情報発信やアーカイブを行う。					
71	せんだい資源ナレー	2/5～7	メディアテーク	6,000	6,000	市負担金 6,000
	世界的・全国的な課題となっているプラスチックごみ対策として、令和2年度に仙台市が取り組む「プラスチック資源循環の推進にかかる事業」の一環として開催する、海洋プラスチック版「資源ナレー」を共催する。					
72	展覧会事業	通年	メディアテーク	18,000	18,000	市補助金 8,000 入場料 1,000 助成金 9,000
	主題「ナラティブの修復」を象徴する事業として、アーティストと協働し、今日的な社会の課題や哲学的な問いを表現によって投げかける展覧会。地域社会の過去と現在を読み解く多様な「物語り」の技法を、美術表現として探求している作家たちを紹介する。主として仙台を拠点に活動している表現者を選定し、震災から10年が経過した東北と、せんだいメディアテークの開館から20年目となる仙台を展望する。					

73	スタジオ情報発信/地域文化アーカイブ	通年	メディアテーク	4,510	4,510	市補助金 2,010 助成金 2,500
市民間の交流、対話を促進するための対話の場／機会／メディアを用意する。 <スタジオ情報発信> 「考えるテーブル」など、誰もが参加可能な対話型公開会議などを中心に、市民力を醸成し、市民の主体的な社会参画が文化面から活性化していくことを目指すとともに、さまざまな市民の文化活動と協働する事業を行う。 <地域文化アーカイブ> 市民による自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す取り組みを実施する。成果物は、メディアテークに保管され、ライブラリーへの配架やウェブサイト等での発信などにより、広く市民に活用される財産とする。また、それらをもとにした小規模な展示を行うことで、仙台市域のさまざまな文化活動へのより広く深い市民の関心を促す。						
74	発信・施設活用推進	通年	メディアテーク	5,390	5,390	市補助金 4,990 刊行物等販売 400
各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開していく。 ①バリアフリー・デザイン事業: 目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳、音声解説、字幕制作等のデータ作成を市民との協働で行う。成果物を活用した上映会等の開催、作成に関わる人材の育成、技術向上に向けた一連の取り組みを行う。 ②館長発信事業: 発信力のある鷺田清一館長を軸に、著名なゲストとのトークの開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、メディアテーク全体の新しい姿を示していく。併せて、館長の動向を伝える情報発信なども行い、より広い理解へと努める。 ③地域文化連携・施設活用推進: 各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示や上映会など多様な活用事例を示していく。さらに、市民図書館とのイベント等の各種連携を通じ、より広い関心を集め、交流を促進する機会をつくる。 また、取り組みがひろく市民に届くよう定期的な広報、啓発、情報発信に努め、次年度事業にまつわる調査を通じ、時勢に敏感に応じた事業に取り組んでいく。						

4. 定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等見込・備考
(単位:千円)						

(1) 仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

75	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	63,807	63,807	市指定管理料 63,807
歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行う。						
76	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	908	908	市指定管理料 908
「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介する。また、震災関連展示を行う。さらに、開館40周年を過ぎたことをふまえて常設展図録を作成する。						

① 特別展・企画展及び関連事業

77	企画展「オールドグラフィック～近代仙台のメディア文化」	4/25～7/5	歴史民俗資料館	260	260	市指定管理料 260
グラフィックとは、写真・絵画などを用いて視覚に訴える印刷物などのこと。メディアとは情報媒体などのこと。本企画展では仙台地方を中心に、幕末・明治時代以降から大正期・昭和初期、戦後、現代にかけて発行されたオールドグラフィックを通して、近代仙台のメディア文化の移り変わりを明らかにし、その歴史的な役割を考える。						
78	企画展「わらと生活」	7/18～11/3	歴史民俗資料館	881	881	市指定管理料 881
「わら(藁)」とは、稲、麦などの茎を乾燥したもの。昭和30年代までは、わらは衣食住、交易や交通、あるいは信仰や祭りなど、人々の生活の様々なところで使われ、実用的な機能や役割とともに、生活美や民芸としても評価されてきた側面がある。本企画展では、わら製品を中心に民衆の生活文化について考えていく。						
79	特別展「仙台の災害～天災は忘れたころに～」	11/14～4/11	歴史民俗資料館	1,766	1,766	市指定管理料 1,766
ヤマセなどの天災による飢饉をはじめ、仙台地方は地震や洪水、火災などの災害にたびたび悩まされてきた。本特別展では会期中に東日本大震災から10年を迎えるにあたり、東北地方を全般に見通しながら、旧仙台藩領を中心にして江戸時代から現代にいたるさまざまな災害に対する備えや対策、信仰などについて紹介する。						

80	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	98	98	市指定管理料 98
	①資料館サポーター養成講座(7月～3月):「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことをめざす。 ②子ども講座(7月、1月、3月):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催する。 ③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいいけん」(4/25～5/6の間の8日間):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験する。 ④クイズラリー(夏休み・冬休み):クイズやパズル形式での自主見学学習。 ⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8月、10月、2月):展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催する。 ⑥ホームムービーの日(10/17):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開する。					
81	資料館だより等の発行(その他の事業)	通年	歴史民俗資料館	148	148	市指定管理料 148
	資料館だよりの制作や、資料館の活動チラシを作成し、学校、町内会、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学学習に資する。					
82	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	1,422	1,422	市指定管理料 1,422
	資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集」をまとめ刊行する。					
83	調査報告書等の発行	通年	歴史民俗資料館	1,089	1,089	市指定管理料 1,089
	仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行する。また館蔵資料の公開、活用のため「資料集」を編集・刊行する。					
84	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習および総合的な学習の際、年間100校を超える市内外の学校が見学に訪れ、石臼挽きなどを体験をする。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施する。					

(2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

85	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	94,479	94,479	市指定管理料 94,479
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理する。					
86	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	13,588	13,588	市指定管理料 13,588
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行う。					

① 特別展・企画展

87	企画展「仙台の遺跡めぐり きみのまわりの旧石器」	4/24～7/19	富沢遺跡保存館	62	62	市指定管理料 62
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。春季企画展は、仙台市内の遺跡から出土した資料を中心に、身近な文化財を紹介するシリーズとして開催している。今回は仙台の旧石器時代の遺跡を中心に、石器の作り方や旧石器時代の環境なども紹介する。					
88	企画展「動物形土製品 の考古学」(仮)	8/4～10/18	富沢遺跡保存館	126	126	市指定管理料 126
	宮城県内の遺跡から出土した動物形土製品や動物モチーフの資料を中心に、関連資料やパネルの展示を通して市民の考古学への理解を深める。					
89	特別企画展「考・古・食ー和食のはじまり」(仮)	11/19～1/11	富沢遺跡保存館	2,278	2,278	市指定管理料 2,278
	世界でも人気となっている和食。今回の企画展では、その根本となる、日本列島の自然環境に応じて多様に利用された食材と食に関わる出土品を、東北地方の遺跡出土資料を中心に紹介する。					
90	企画展「もりの風景2020」(仮)	2/2～3/14	富沢遺跡保存館	28	28	市指定管理料 28
	富沢遺跡保存館で行われた当年度事業と、ボランティア会などの活動成果を紹介するとともに、自主財源事業「施設広報開発事業」で参加者が作成した作品を展示する。					

91	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	1,382	1,382	市指定管理料 1,382
	①地底の森フェスタ2020(10/12):屋外を会場とし自由参加の形態で開催する。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を行う。ボランティア会とともに企画実施。 ②考古学講座(11/21、1/30):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する、一般市民を対象とした講座。 ③たのしい地底の森教室(通年):当館スタッフが、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物の説明、石器づくりなどのモノづくり体験を行い、古代人の技術や地底の森ミュージアムの特性を紹介する活動を行う。また、「冬キラ」や「森を育てる」など、これまで自主財源事業として実施し好評を得た事業も行い、施設の魅力を多様な観点から紹介する事業として位置付ける。土・日・祝を中心に毎月1〜2回程度実施。 ④利用学習事業(通年):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施する。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、実践内容はウェブサイトで公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行う。 ⑤市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による10名を対象に、1年間にわたり週1回 当館学芸員が支援する活動日を設ける。成果は活動報告書にまとめる。 ⑥ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行う。 ⑦地域や大学との連携:地域のイベントである太白区民まつりに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行うなど、地域や大学との連携を強化する。 ⑧富沢ゼミ:富沢遺跡周辺を中心に、仙台市内や宮城県内の遺跡や文化財などを紹介する講座。					
92	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	190	190	市指定管理料 190
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、今後の博物館運営に役立てる。					
93	ポスター・図録等の印刷・刊行	通年	富沢遺跡保存館	1,401	1,401	市指定管理料 1,401
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成する。なお、特別企画展については展示図録を刊行する。					
94	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用する。					
95	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	376	376	市指定管理料 376
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行う。併せて保存処理検討会を開催する。					
96	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	267	267	市指定管理料 267
	令和3年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行う。また開館から23年を経過し、常設展の内容が最新の研究成果を反映していないところが増えてきており、展示内容や方法を検討するために有識者を招き指導・助言をいただく場を設ける。					
②地域との連携事業						
97	運営懇談会	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
	富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るために事業を紹介したり、館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行ったりするための場を設ける。近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等を対象に、懇談会や聞き取り調査を行い、学校や地域との連携事業を進めていくきっかけとする。					
(3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業						
98	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	48,169	48,169	市指定管理料 48,169
	縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理する。					
99	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	16,483	16,483	市指定管理料 16,483
	施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気を伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行う。					
100	コーナー展示	通年	縄文の森広場	38	38	市指定管理料 38
	宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介する。 ①東北の縄文遺跡③「岩手県山田町浜川目沢田Ⅰ遺跡」(3/14〜6/7) ②「東北の縄文遺跡④」(7/18〜10/18) ③「東北の縄文遺跡⑤」(12/1〜2/11) ④「東北の縄文遺跡⑥」(3/13〜6/6)					
101	縄文まつり	5/9、8/9、 10/24、1/31	縄文の森広場	1,011	1,011	市指定管理料 1,011
	季節ごとに開催する自由参加イベント。計4回実施し、その日だけの体験コーナーや音楽演奏などを実施する。					

102	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	1,861	1,861	市指定管理料 1,861
	①団体予約:子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験。 ②随時体験:来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供。 ③体験講座:「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」など、各種体験教室。 ④特別イベント:春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等。					
103	縄文講座	12月～2月	縄文の森広場	138	138	市指定管理料 138
	縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回公募80名対象。 ①「縄文最新研究 最前線①」(12/13) ②「縄文最新研究 最前線②」(1/17) ③「縄文最新研究 最前線③」(2/21)					
104	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	307	307	市指定管理料 307
	当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行う。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明などのための研修事業。					

①学校との連携事業

105	学校教育との連携	8月、 10月～12月	縄文の森広場	8	8	市指定管理料 8
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員利用研修会及び機関研修を実施。10月～11月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施。10月～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れる。					
106	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,687	2,687	市指定管理料 2,687
	小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学学習の一環として当館を効果的に利用する利用学習を実施する。当館利用推進を目的として、授業の実践校に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行う。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行う。令和2年度の応募校は24校が見込まれている。					

②地域との連携事業

107	運営懇談会	通年	縄文の森広場	2	2	市指定管理料 2
	縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とする。また、地域と連携した今後の事業を模索する場とする。					
108	野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつめる『じょうもん』」	通年	縄文の森広場 太白山自然観察の森 太白小学校	121	121	市指定管理料 121
	野外展示「縄文の森」の利活用の幅をひろげるために、近隣住民・小学校・地域の団体などと連携を図りながら、専門家の指導を受けて植生環境の充実を図る事業。太白小学校1年生を対象として、生育するクリなどを採取し育てる事業を行った。当年度も、引き続き縄文時代に利用された植物を観察する事業を継続して行う。					

③調査研究事業

109	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	149	149	市指定管理料 149
	各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組む。					
110	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	
	公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討する。また、土葺き竪穴住居の上屋構造に関する調査などを行う。					
111	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	
	当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施する。					
112	次年度コーナー展資料調査	通年	縄文の森広場	48	48	市指定管理料 48
	令和3年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施する。					
113	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	
	仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行う。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行う。					

(4)仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

114	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	197,352	197,352	市指定管理料 197,352
	文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行う。					収益事業を含む

115	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	
	明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介する。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行う。					
①特別展・企画展						
116	企画展「作家・編集者 佐左木俊郎～農村と都市 昭和モダンの中で」	4/25～6/28	仙台文学館	1,151	1,151	市指定管理料 1151
	生誕120年の節目を迎える宮城ゆかりの作家・編集者佐左木俊郎を取り上げる。大正末から昭和初期にかけて、作家・編集者として時代を切り開いた、佐左木俊郎の活動を中心に紹介する。交友のあった作家とのやり取りや、活躍した時代背景なども取り上げ、地元ゆかりの作家について広く知っていただく機会とする。					
117	夏休み子ども文学館えほんのひろば みちのく妖怪ツアー	7/18～8/23	仙台文学館	1,591	1,591	市指定管理料 1591
	宮城県在住の作家・佐々木ひとみ、野泉マヤ、堀米薫の各氏による児童書『みちのく妖怪ツアー』の展示を開催。本作は東北の妖怪ゆかりの地を巡るツアーに参加し、行く先々で一人、また一人と消えてくという内容で、物語は東北の伝承や食文化にも触れながら読むものを恐怖へといざなう内容。展示では全6話を6つのコーナーに分けてそれぞれ紹介するとともに、妖怪登場シーンを再現したフォトスポットを設け、物語を体感できるようにする。					
118	特別展「安野モヨコ(仮)」	10/4～12/13	仙台文学館	5,536	5,536	市指定管理料 5536
	「働きマン」「ハッピー・マニア」「さくらん」など、女性の本音や悩み、ファッション、時代の空気、美意識などすべてを盛り込み、深い共感と高揚をもたらす作品を描く安野モヨコ。1995年に連載がスタートした「ハッピー・マニア」から現在も執筆中の「オチビサン」や「鼻下長紳士回顧録」まで、代表作の扉絵や名シーンの原画約250点を紹介。					
119	特別展「佐野洋子の世界(仮)」	1/16～3/21	仙台文学館	4,492	4,492	市指定管理料 4492
	40年以上も愛読される『100万回生きたねこ』をはじめとする数々の絵本、そして鋭い観察眼と独特のユーモアで読者の心をわしづかみにする多くのエッセイを残した佐野洋子。その作品世界は、没後10年が経ってもなお多くの人を惹きつけている。絵本原画をはじめ、原稿や写真、日記などを通して、つねに自分を偽ることなく生き、表現し続けた佐野洋子の魅力を紹介。					
120	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/10～2/11	仙台文学館	203	203	市指定管理料 203
	文学館あての年賀状を広く一般から募集する。文学館の住人でもある作家宛の年賀状やゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示する。					
121	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	3,736	3,736	市指定管理料 3736
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行う。収集した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行う。また、必要に応じて資料の修復や複製の制作を行う。					
122	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	1,461	1,461	市指定管理料 1461
	令和3年春の特別展の準備を進める。					

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					備考

(単位:千円)

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

123	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	338,445	338,445	市指定管理料 338,445
	平成29年度から5年間の指定管理を受け、その4年目となる当年度は次のとおり施設運営を行う。 (1)利用者が安心・安全に利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化するとともに、火災や震災、外部からの脅威に対してより実践的に対処できる防災体制について、不断の見直しを行いながら取り組む。 (2)利用者との積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスを行い利用者の増加を目指す。 (3)施設利用や芸術文化に関するタイムリーな情報を広く提供するなど広報を強化する。 (4)市民の文化活動の拠点施設及び劇場法にうたう劇場・音楽堂としての役割を担うことを認識し、地域資源を有効に活用するなど工夫しながら各種事業を展開し、より市民に親しまれる施設づくりを進める。 (5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続するなど意見集約を積極的に行いながら業務改善に努める。 (6)令和2年10月から約1か年に亘って全館閉館して行う大規模改修についてはこれまで培った管理運営の知識と経験をいかしながら、施設設置者とともに漏れのない準備を引き続き行う。また、工事体制に対し、進捗にあわせた連携・協力などを積極的に行うなど、よりよい施設づくりに貢献する。 (7)楽都仙台や劇都仙台的拠点施設として事業の運営サポートを行う。					収益事業を含む

(2) 仙台市泉文化創造センター管理運営事業

124	仙台市泉文化創造センター管理運営	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	133,289	133,289	市指定管理料 133,289
	「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として令和2年度から5年間の指定管理を受けた期間の1年目として、次のとおり施設運営を行う。 (1)市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を目指していく。 (2)施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させる。 (3)適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なっていく。 (4)施設の安全な維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取組みを引き続き推進していく。 (5)施設を活性化させる事業として、宝塚歌劇仙台公演、新春いずみ寄席、クラシックコンサートシリーズ、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント、ホール見学会及びボランティアによるピアノ弾き込み事業、市民ギャラリー等での展示事業を行う。					収益事業を含む

(3) せんだいメディアテーク管理運営事業

125	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	638,002	638,002	市指定管理料 638,002
	市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特性を最大限に生かし、人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、計画的に保全を図っていく。メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行う。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行う。事業としては協働事業を引き続き発展させ、市民参加型事業を積極的に進める。また、博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組む。					収益事業を含む
126	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	9,230	9,230	市指定管理料 9,230
	映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供する。また、せんだいメディアテークの事業、および「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供する。					